

順天堂大学

先導的がん医療開発研究センター

2012
第 3 号

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター



11月30日(金)
がんプロシンポジウム

平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

研究シンポジウム

「基礎研究を先進がん医療に活かす」

東京理科大学 薬学部 教授 東 達也

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」では、がん専門医療人に加えて、先進がん医療に貢献する基礎研究者の養成も大きな目的である。そこでまずは、個々の大学の研究課題・強みを相互に理解し、それらの有機的連携を探るべく、11月30日「基礎研究を先進がん医療に活かす」と題したシンポジウムが、東京理科大学の主催により同大学薬学部（千葉県野田市）において開催された。曇天の寒い日ではあったが、75名の連携大学の皆様にご参加いただいた。医学、薬学、医学物理といった様々な分野・領域の研究者・大学教員、本がんプロ運営スタッフとともに、大学院生の参加も目立った。





東京理科大学大学院薬学研究科 牧野 公子 研究科長の挨拶の後、早速、独立行政法人国立がん研究センター研究所 遺伝医学研究分野 吉田 輝彦 先生から「ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・創薬に関する総論的考察」という演題で基調講演を頂いた。体細胞 (somatic) と生殖細胞系列 (germline) に分けての個別化治療、個別化予防 (先制医療) に続き、バイオバンク・データベースの重要性や活用などをお話いただいた。

続いて連携7大学から1題ずつの研究発表が行われた。紙面の都合で詳細は割愛させていただくが、中皮腫バイオマーカーの開発とその診断・治療への応用 (順天堂大学 樋野 興夫 先生)、抗がん剤耐性コロニーの細胞分子生物学的研究 (岩手医科大学 西塚 哲 先生)、呼吸器がんのトランスレーショナルリサーチ (島根大学 磯部 威 先生)、卵巣がんに対する新規薬剤 (鳥取大学 大石 徹郎 先生)、in silico抗がん剤創成手法 (東京理科大学 田沼 靖一 先生)、トランスポーター阻害に基づく悪性脳腫瘍治療戦略 (明治薬科大学 井上 裕貴 さん (大学院生))、放射線治療の高精度化に資する装置の開発 (立教大学 玉木 聖一 さん (大学院生)) と、非常に多岐にわたる内容であり、それぞれの研究の一層の追求と大学間 (医学一薬学一理学) 連携の推進・深化、さらには共同研究への発展がなされれば、先進がん医療に大きく貢献するものと期待される。発表後には活発な議論もなされ、これはシンポジウム後の情報交換会まで続いた。今回のシンポジウムは、連携大学間の共同研究の芽を生み、参加した研究者・大学院生のがん研究に対するモチベーションをさらに高めるものであったと確信している。

末筆ながら、シンポジウムにおいて貴重なご講演を賜りました先生、大学院生の皆様に厚く御礼申し上げます。



Program	
13:00~	1. 開会の辞
13:05~	2. 基調講演 独立行政法人国立がん研究センター研究所 遺伝医学研究分野 吉田 輝彦 分野長 「ゲノム系情報に基づくがんの個別化医療開発・創薬に関する総論的考察」
休憩	
3. 各連携大学からの研究発表	
14:15~	順天堂大学 医学部病理・腫瘍学 樋野 興夫 教授 「『国際環境がん制御研究』の推進〜難治性中皮腫をモデルにして〜」
14:30~	岩手医科大学 外科分子治療研究室 西塚 哲 講師 「Colony Lysate Array (CoLA) を用いた抗がん剤耐性コロニーの分子生物学的プロファイル」
14:45~	島根大学 医学部内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学 磯部 威 教授 「腫瘍内科で行うトランスレーショナルリサーチ」
15:00~	鳥取大学 医学部附属病院女性診療科群経括医長 (医局長) 大石 徹郎 講師 「卵巣明細胞腫瘍におけるPI3K/mTOR 阻害剤NVP-BE2235の細胞増殖抑制効果の検討」
15:15~	東京理科大学 薬学部薬学科 田沼 靖一 教授 「新しいin silico創薬の実践」
15:30~	明治薬科大学 薬学研究科薬学専攻博士課程 (後期) 薬物体内動態学教室 井上 裕貴 大学院生 「悪性脳腫瘍の光線力学診断と治療をめざしたABC2阻害剤のデザイン」
15:45~	立教大学 理学研究科博士課程 (後期) 玉木 聖一 大学院生 「医学物理研究に対する立教大学の取り組み」
休憩	
16:15~	4. 総括 (質疑応答)、閉会の辞
17:00~	情報交換会

10月22日(月) Richard Hoppe 先生特別講義について

平成24年度 特別講義プログラム

『The evolution of radiation therapy for the management of lymphomas』

10月22日(月)、順天堂大学本郷キャンパスにて、スタンフォード大学 Richard Hoppe 先生をお招きし、がんプロ特別講義を開講しました。

先生には、「The evolution of radiation therapy for the management of lymphomas」と題し、ホジキンリンパ腫の歴史と概説、H Kaplanにより開発された放射線治療法から、現在の悪性リンパ腫における放射線治療の位置付けについてご講演をいただきました。先生はH Kaplanの愛弟子であり、かつ世界の悪性リンパ腫治療のオピニオンリーダーです。長年、スタンフォード大学放射線腫瘍科のchairpersonを勤められ、ホジキン病の治療体系を確立したスタンフォード大学のコアメンバーとして活躍されてきました。

この講演で不治の病だったホジキンリンパ腫の歴史を知ることができました。また、悪性リンパ腫の治療における放射線治療の現在の役割も明らかになりました。学内外から出席された方に有意義な時間になったのではないかと思います。



放射線治療学 教授 笹井 啓資

10月31日(水) 順天堂大学 岩手医科大学 合同カンファレンスについて

順天堂大学 岩手医科大学 テレビ会議合同カンファレンス



夏のFD研修会での学びから、ICTで距離を感じずに共同研究を開始することを計画しておりました。この度、その準備が整い、10月31日(水)、将来の共同研究を目標に乳腺外科間での、ICTでつなぐ順天堂大学・岩手医科大学テレビ会議合同カンファレンスを開始しました。

今回は初回であり、まず第二期がんプロ事業で人とICTでつながる連携についてポンチ絵を用いて両医局員に説明し、互いの自己紹介をしました。次に、筑波大学外科講師の坂東先生をお呼びしていたので、筑波大作成のe-learningを用いていくことは別に、キャリアアップのためのビジョンとミッションの講義をしていただき、両校で活発な意見交換をしました。今後も毎月一回、定期的に行っていきたいと考えています。第二回目は、放射線科の先生方との合同カンファレンスで、治療方針決定に難渋する症例検討会を行う予定です。

乳腺・内分泌外科学 教授 齊藤 光江

12月4日(火) Gunda Leschber 先生特別講義について

平成24年度 特別講義プログラム

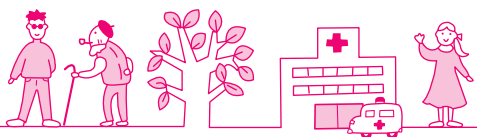
『・Video-assisted Mediastinal Lymphadenectomy ・Female Surgeons in Germany』

さる12月4日、センチュリータワーで順天堂大学大学院特別講義、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催の講演会が開催された。本講演会で演者を務めたのはドイツの呼吸器外科医、Dr. Gunda Leschber, MDである。Dr.Gundaはベルリン出身でドイツにおける初の女性教授である。ベルリンと言えばベルリンハーモニーオーケストラを思い浮かべる方も少なくないと思われるが、つい最近まで女性の楽団員を拒否していたこの楽団がドイツにおいて女性がprestigiousな地位に就くのが如何に困難かと言うことを物語っている。

Dr. Gundaの講演は三部作と盛りだくさんで、聴衆は呼吸器外科、食道外科、呼吸器内科の各医局員と大学院生、そして順天堂大学学生と、大盛況の元に開催された。肺癌に対する縦隔鏡に関する実際とこれまでのreview、そして最後には女性に如何に外科学が魅力的であるかについて、熱く講演された。彼女は今年の欧州呼吸器外科学会の会長でもありその言葉に重みがあり、医局員、学生のこころに灯をともしたようである。順天堂大学でも女性の外科医(特に呼吸器外科)が増えて相乗効果を持って医学界に貢献できればと心を改めた次第である。



呼吸器外科学 教授 鈴木 健司



Leading center for the development and research of cancer medicine

情報 コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- **明治薬科大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進事業 講演会**
テーマ「アメリカの薬学教育とレジデンシー制度、がん専門薬剤師の臨床活動」
講演者：大友千絵子 Pharm.D., BCOP
2012年11月15日（木）16：00～18：00 明治薬科大学清瀬キャンパス講義棟2階201教室
- **がんプロシンポジウム**
テーマ「基礎研究を先進がん医療に活かす」
幹事校：東京理科大学
2012年11月30日（金）13：00～18：00 東京理科大学野田校舎13号館1311教室
- **明治薬科大学 がんプロフェッショナル養成基盤推進事業 講演会**
テーマ「がん研究におけるDNA付加体研究の過去・現在そして未来」
講演者：戸塚 ゆ加里 （独）国立がん研究センター研究所 発がんシステム研究分野 ユニット長
2012年12月10日（月）17：30～18：30 明治薬科大学清瀬キャンパス 講義棟204教室
- **鳥取大学・鳥根大学がんプロシンポジウム**
テーマ「がん医療における地域貢献とは」
2012年12月13日（木）16：15～18：30 鳥取大学医学部附属病院がんセンターキャンサーボード

今後のスケジュール

- **順天堂大学 国際シンポジウム（予定）**
2013年2月28日（木）午後 順天堂大学 センチュリータワー
- **順天堂大学 市民公開シンポジウム（予定）**
テーマ「対話学・対話カフェの重要性」
2013年3月11日（月）13：00～15：30 順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

編集後記

世界遺産の「中尊寺」と「毛越寺」を訪れる機会が与えられた。松尾芭蕉（1644-1694）の俳句「夏草や兵どもが夢の跡」=The summer grass 'Tis all that's left Of ancient warriors' dreams」の新渡戸稲造（1862-1933）の英訳の句碑があった。新渡戸稲造の英語力には、改めて驚嘆した。新渡戸稲造の国際連盟事務次長時代（1919-1926）の大きな功績として、「オーランド諸島の領土問題」の解決と「知的協力委員会：1946年創設されたユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の前身」を構成し知的対話を行ったことが挙げられる。委員会のメンバー中には、当時の最高の頭脳を代表するアインシュタイン、キュリー夫人もいたことは特記すべきことである。『余の尊敬する人物』（矢内原忠雄 著 岩波新書）の「博士の残した精神こそ日本国民の最も必要とするところでありませう」の言葉が、今、預言的に生きる。「日本国の天職」の自覚へと導く。

週末の午後、市民公開シンポジウムが開催された。特別講演は浅野史郎氏（慶應義塾大学総合政策学部教授・元宮城県知事）の「ATL患者になって」であった。「The Challenged=こういう障害を与えるから、これを撥ね返してみなさい」という言葉は、新鮮な大いなる学びであった。その後、筆者は、新渡戸稲造に倣って、基調講演「偉大なるお節介症候群～sense of humor の勧め～」を短く語った。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>